地元企業のCSR活動と連携した自然再生事業

姫路河川国道事務所　調査課
梶本　秀樹
令和元年10月

発表内容のポイント

①加古川の直轄管理区間では、平成25年に策定した加古川自然再生計画書に基づき、自然再生事業を実施。

②国の自然再生事業によって再生したワンドに、平成26年（2014年）から加古川市内の企業がCSR活動で加古川産フジバカマを移植。

③フジバカマの保護活動をさらなる産官学連携で実施を検討中。

発表内容

1. 背景
2. CSR活動のきっかけ
3. CSR活動内容
4. CSR活動結果
5. 地元の活動と連携した自然再生事業に向けて

背景　加古川とは

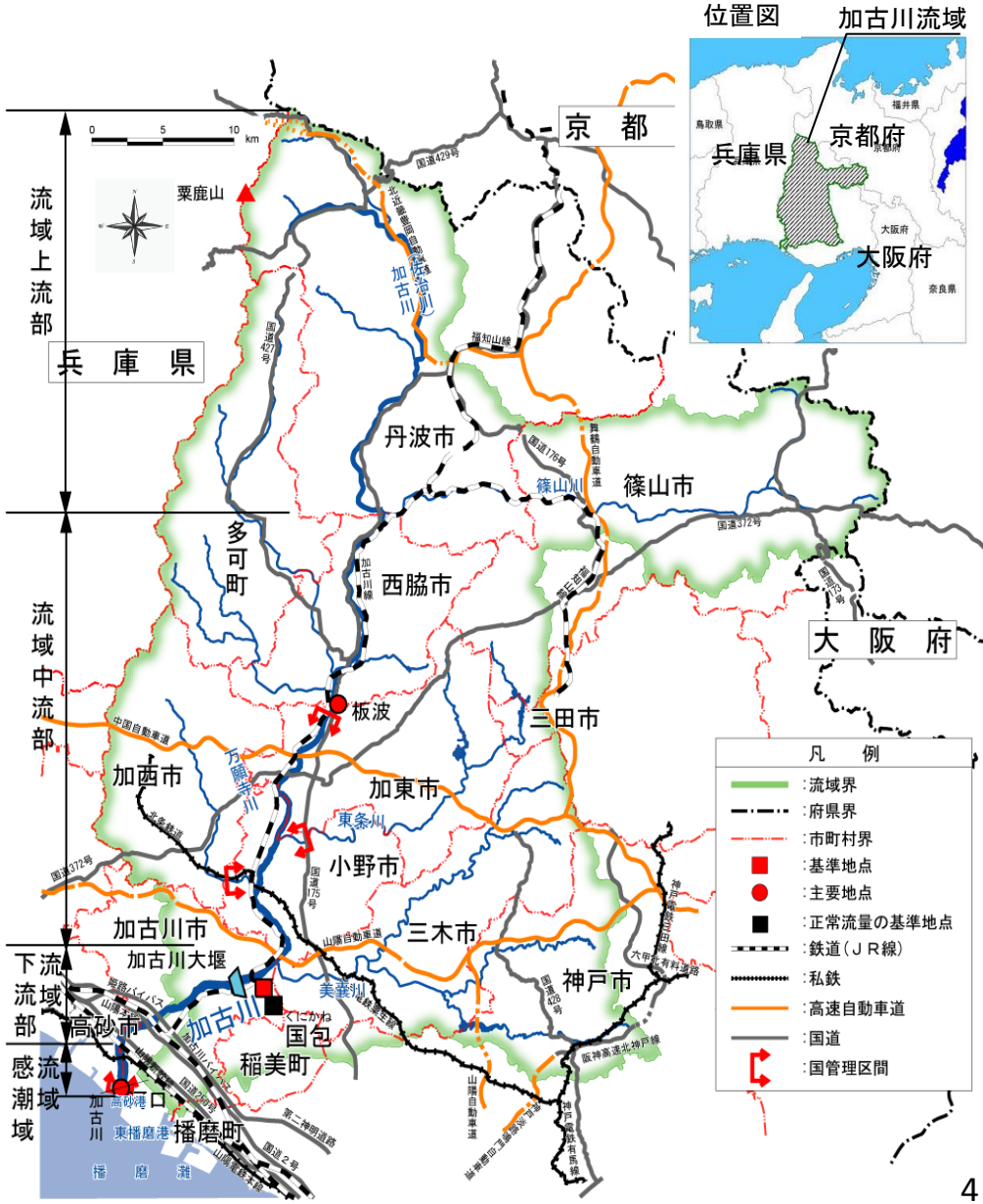
兵庫県下最大の一級河川。
流域の中流部では、染色・金物・そろばんなどの地場産業が発達。
河口部では播磨臨海工業地帯の一角として重化学工業が盛ん。

- ◆流域面積　：　1,730km2
- ◆幹川流路延長　：　96km
- ◆流域市町　：　11市3町

現在、平成23年12月に策定した加古川水系河川整備計画に基づき、河川整備を実施。

河口部・下流部の状況

中流部の状況



背景　フジバカマとは？

フジバカマ(*Eupatorium japonicum*)

キク科の多年草
秋の七草のひとつ
8-10月にかけて、淡い紫紅色の花が咲く。
かつては、日本各地の河原に群生していたが、生育に適した河川の低地の氾濫原の減少や外来種の侵入により減少。
環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定。
加古川は、フジバカマの自生地として日本最大（約300株）

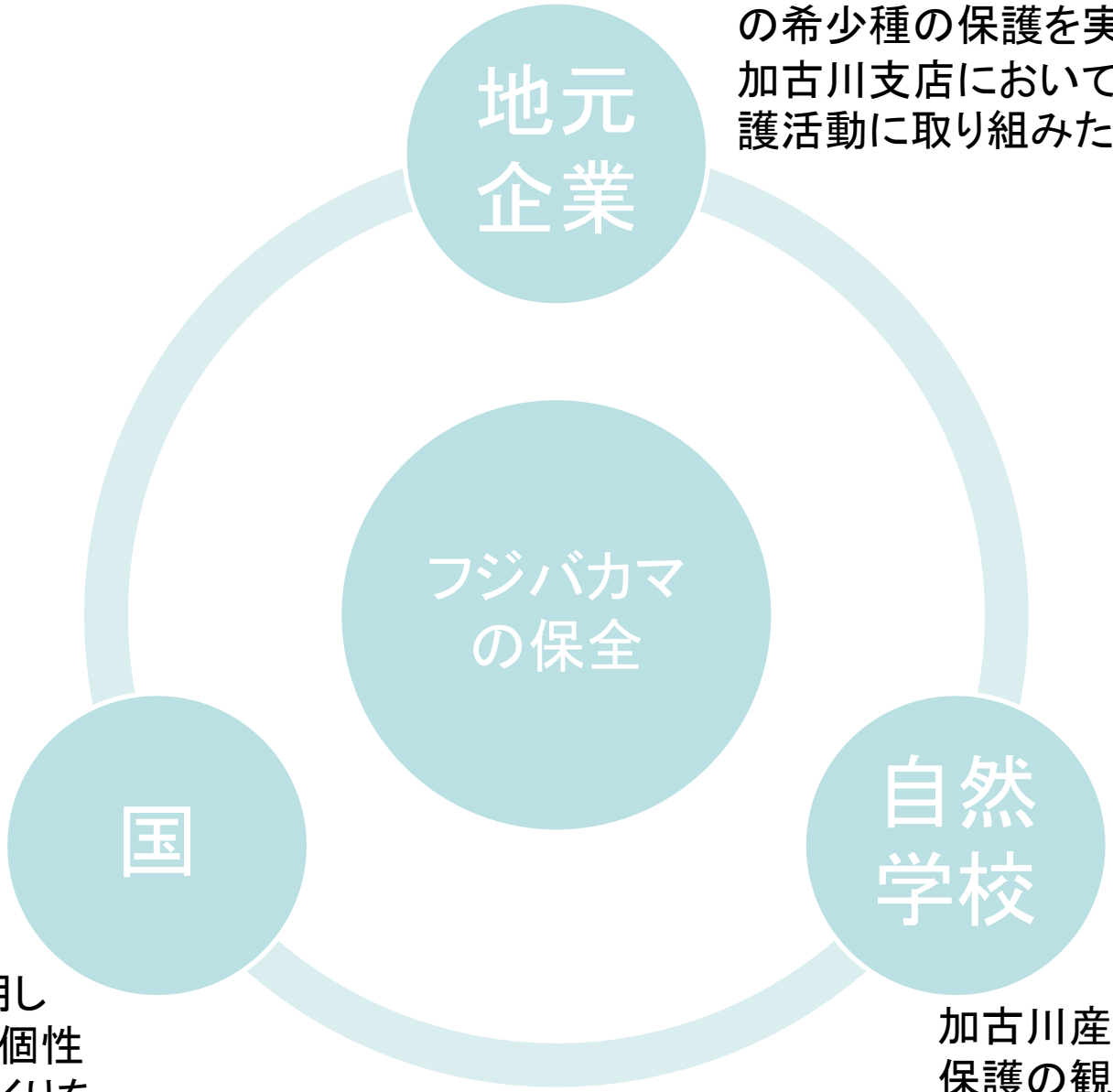
令和との関わり

「万葉集」の梅花の歌、三十二首の序文

初春の令月にして、気淑く風和ぎ、
梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。

元号「令和」の出典となったこの和歌において、「蘭」はフジバカマを指します。フジバカマは乾燥させると桜餅のようなとても良い匂いを発しますが、万葉の高貴な人々はこれを小袋に入れて腰の帯につけていました。

CSR活動のきっかけ



企業として、各支店周辺の希少種の保護を実施。加古川支店においても保護活動に取り組みたい。

地域の力を活用した、それぞれの個性を活かした川づくりを実施したい。

加古川産のフジバカマを保護の観点から増殖する団体を探していた。

CSR活動内容

平成26年3月　加古川　A地点に125株を植栽
平成27年4月　加古川　A地点に　40株を植栽
平成28年4月　加古川　B地点に、42株を植栽
※A地点では、繁殖が思うように行かず、保全活動としては不便であったため、地点変更
平成29年4月　加古川　B地点に、20株を植栽
平成30年4月　加古川　B地点に、13株を植栽
平成31年4月　加古川　B地点に、30株を植栽

住友ゴム加古川工場で育成

加古川河川敷にフジバカマ移植

社員らが125株

住友ゴム工業加古川工場（加古川市野口町）の社員らが11日、同市内の加古川河川敷で、工場内で育成していた准絶滅危惧種のフジバカマを移植した。除草や生育観察を続けながら定着を目指す。

フジバカマはキク科の多年草で、川沿いの湿った草原などで見られ、「秋の七草」の一つとして知られる。希少種の保全に取り組む県立人と自然の博物館（三田市）の服部保特任研究員によると、県内では加古川下流域などで自生していたが、外来種の繁殖や河川改修などで減少。環境省の第4次レッドリストで絶滅危惧種に、県版レッドリストのBランクに指定されている。

同工場は、服部特任研究員から苗を譲り受け、3年前から敷地内で育成、増殖を進めていた。この日は同工場と服部特任研究員が育てた計125株を持ち寄った。社員ら約30人が河川敷の水たまり「わんど」の斜面に直径、深さ約1メートルの大きさの穴を掘り、新芽の出た株を植えた。

服部特任研究員は「フジバカマは万葉集、源氏物語にも登場する。種の保全は日本の文化を守ることになる」と強調。松下裕臣工場長は「移植を通じて、地域住民との交流につながれば」と話している。（大久保秀）

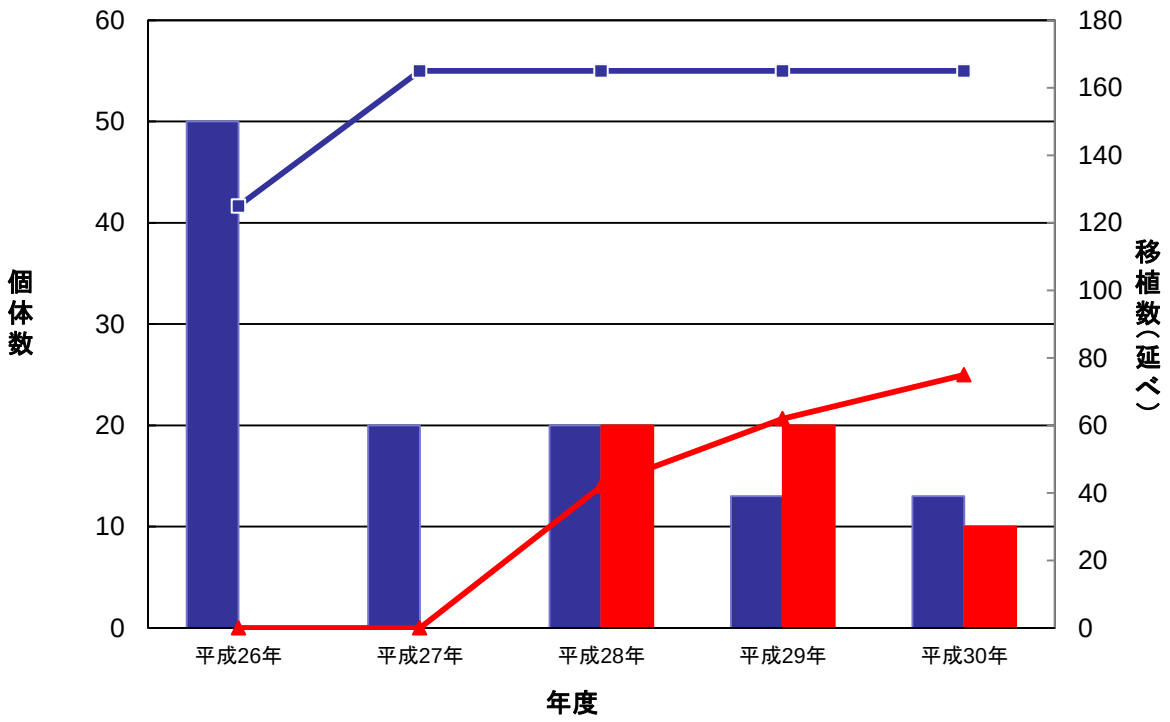
フジバカマを移植する住友ゴム工業加古川工場の社員＝加古川河川敷

平成26年3月　神戸新聞（朝刊）

平成27年4月の植栽作業の様子

CSR活動結果 フジバカマの個体数

出水等の攪乱が発生すると、個体数が減少していた。
CSR活動だけでは、個体数増にはなりにくいことが分かった。
A地点
・平成26年の出水によりフジバカマが流出流された
・平成28年以降はある程度個体数は維持されている。
B地点
・平成30年7月豪雨により、植栽箇所周辺の群落が流出していることから、フジバカマも同様に流出したことによる個体数減と考えられる。



今後の展開

さらなる産官学連携による保全に向けた植栽活動の拡大

地元企業は、加古川商工会を通じ、保全活動に賛同して頂いた企業へ株分けを実施し、フジバカマの植栽活動の拡大を図る。

姫路河川国道事務所は今年度、小野市高田地先において、自然再生事業として、わんど整備を実施予定。
整備したわんど周辺でフジバカマの植栽行うことを、服部兵庫県立大名誉教授からご指導していただいたこともあり、川の賑わいの創造に向け調整中。